

伊予市

じんけん教育

2006
NO. 2

～ 一人一人の人権が尊重される、明るい伊予市をめざして ～

編集・発行／愛媛県人権教育協議会伊予市支部・伊予市教育委員会 (〒799-3113 伊予市米湊768番地2 ☎ 089-982-5155 内線737)



■ クリス先生との交流

幼児期から様々な人と接して欲しいという願いのもと、伊予幼稚園では、今年の九月から、国際交流員のクリス先生との交流「英語で遊ぼう」が始まりました。週に一回程度各クラスで交流をもち、いろいろなクイズをしたり、ゲームをしたりして楽しんでいます。

ハロー、クリス先生

— 国際交流員との交流を通して —

伊予幼稚園

か戸惑う姿も見られました。しかし、一緒に遊んでいく中で幼児たちの戸惑いは少しずつ減り、今では、「明日クリス先生が来るからね。」と話す、「やったあ、一緒に遊べるね。」と、心待ちにしている様子が見られるようになりました。そこで、クリス先生と幼児たちとの交流の様子を紹介したいと思います。

クリス先生は大きな世界地図を幼児たちに見せてくれました。地図を見た幼児からは歓声があがり「中国ってどこ?」「アメリカってどこ?」また、「僕たちがいるところはどこ?」「地図に興味・関心をもつ姿が見られました。

また、日本の旗やアメリカの旗を使ってゲームをし、自分たちの国の旗にも触れることができました。この他にも、いろいろな国のじゃんけんやあいさつのしかたを教えてもらいました。

このように、いつもクリス先生の周りには多くの幼児が集まり、楽しくおしゃべりをしています。国際交流員との交流を通して、いろいろな国の文化に触れ、自分たちが住んでいるところにも興味をもち始め、視野も広がったように思います。今後は、自分たちが住んでいるところの文化にも目を向けられるよう支援していきたいと思えます。

また、様々な人と接する機会を多くもち、自分の周りの人たちに自分自身にも目を向け、みんなを大切にできる子どもたちに育つてくれればと願っています。



■ おしゃべりの様子

人権・同和教育の取組

—人権集会を通して— 中山中学校

本校の人権・同和教育の重点目標の中の「仲間意識を育てる集団づくりの推進」の一つとして、十一月に人権・同和教育の視点に立った三回の人権集会を行いました。

第一回 人権アンケートの考察

第二回 手話について・「総合的な学習の時間」の発表

第三回 人権メッセージの発表

第三回の人権集会においては、「心のささやきに耳を澄ませ」というテーマのもと、今年初めて人権メッセージを取り入れました。また、保護者の方にも参加していただき、有意義な集会を行うことができました。



指文字を作りました

言葉は不思議な力をもっています。普段の何気ない言葉の中に、人を安心させたり、勇気づけたり、時には悲しい思いをさせたり…。私たちも自分が発するその一つ一つの言葉で周りの人を幸せにすることができるといいですね。自分も大事、そして周りの人も大事なのです。そのことを忘れないためにこのような集会を積み重ねることが大切だと思います。最後に二人の生徒の意見を紹介します。

● 僕は道徳の授業や人権についての学習が苦手です。今まで何となくその場しのぎで、きれいごとを言ってきたような気がします。なぜ人権について学ぶのか分かったような気がしました。(男子)

● 深い悩みを抱えている人、昔抱えていた人、様々な人がいて、皆色々考えていて辛くて苦しくて、それでも生きていて、人として友としてどんな目にあっても、何があってもやさしくできるような毎日がんばっているんだと思う。この感情は今もきつと、これからも言葉では絶対に言い表せないと思う。発表者の気持ち、意思が音楽を媒介にして直に伝わってきた。あんな決意を普段、面と向かって言われると絶対に笑ってしまおうと思う。世の中まっすぐじゃ生きていけないと思う。でも間違った方向にねじ曲がってしまうと、他人の思いを意識できないような、寂しい人間になると思う。目の前のことを受け入れて、理解して中身を見ることができるよう人間になりたい。(女子)

ある女子学生の経験 (ワークシート)

いとこのお姉さんが結婚をすることになった。相手の方は高学歴で身長も高く、見た目も良いのに、35歳を過ぎていた。そこで、いとこの母は知り合いに頼んで調べてもらった。

次のことをあなたはどう思いますか。(よい○ いけない× わからない△)

(1) 知り合いに調べてもらった母の行動をどう思いますか。	① 娘の幸せを願っての行動だからよい。	
	② 相手のことを知ることは大切だからよい。	
	③ 身元調査は差別につながるのだからいけない。	
	④ 自分自身や真実を見失うことになるのだからいけない。	
(2) あなたが結婚する、いとこのお姉さんだったらどうしますか。	① 調べてもらった結果で判断して決める。	
	② 母の行動を戒め、相手の人柄で決める。	
	③ 自分のために調べてもらった母に感謝する。	
	④ 差別はいけないが相手のことは詳しく知りたい。	

※ それぞれお考えが異なるかと思いますが。ご家族で話し合ってみましょう。

身元調査って、なぜいけないの？



- ① 調査結果で人を選別することになり差別につながる。
- ② 自分自身や真実を見失うことになる。
- ③ 人のことを探ることは、心に潜む差別意識の現われである。
- ④ 身勝手な尺度で、人を評価したがる人々の偏見に惑わされる。

第7回 人権を考える市民の集い

演題 『混迷の現代社会を想う』

2005年11月3日

次に、現地へ出向いて見たイラクのバスラ地区における状況を戦争と人権の角度からとらえての話でしたが、聴いていて胸が痛みました。治安が悪いこと、ス

時機を得た演題で、分かりやすく話していただきました。最初に、最近のニュースにふれ、インターネット時代と価値観や経営に関する基本概念、さらに、生活の中の情報のとらえ方等について示唆をいただきました。つづいて、オウム事件とイラクの現状の話がありました。

まず、「オウム教団の三つのなぜ」
 (①なぜ犯罪に走ったのか。②なぜ人殺しの指示に従ったのか。③なぜ若い優秀な人が集まったのか。)について、人権・生命重視の観点に立ち、具体的な事例も挙げて、分かりやすく話してくださいました。



■ 講師 ジャーナリスト江川紹子さん

トリートチルドレン(親も家もなくした子どもたち)が増加していること、上・下水道は破壊され飲料水にもこと欠くこと、汚水を飲み病気で死んでいく子どもがいること、衛生状態が悪いこと、医薬品や医療器具の不足で治療も思うようにできないこと、また、劣化ウランに被爆した二〜三歳の子どもが癌を発病して死亡することなど、心の痛む事柄ばかりでした。戦争は人権も生命も容赦なく奪ってしまうことを改めて認識しました。

江川さんは、子ども専用の公共墓地へ行った時のことを話されました。質素で墓石もなく、その子が生まれてきた証が一つも残りません。そこに居あわせたおじいさんは、「戦争の犠牲になってこの現実を、皆さんに伝えてください。」と、涙ながらに訴えました。「戦争は、最大の人権侵害です。人権は命なのです。イラクの人々の人権と命が大事にされていないと言わざるを得ません。」残念な気持ちを江川さんはこう強調されました。

最後に、「人の命と人権がかかっている時は、相手の気持ちを考えていくこと、自分の頭で考えること、想像力を働かせることを大事にして欲しい。自分の心と頭でしっかり考えて欲しい。」と、結ばれました。

人権座談会の開催

港南中学校 2005年11月13日



■ 人権擁護委員さんとの話し合い

本校では、人権・同和教育参観日を兼ねた「港南人権フェスタ」を毎年実施しています。人権委員の生徒が中心となって、江口いとさんの「人の値うち」という詩をベースにした人権劇を演じ、最後に、江口さんの思いを考えながら、気持ちを込めてその詩を朗読しました。

人権フェスタ終了後に、6名の人権擁護委員さんと25名の生徒会役員・人権委員とで人権に関する座談会を開きました。この座談会では、人権劇で思いを表現した生徒たちが、人権フェスタへの感想を中心に、人権擁護委員さんと幅広い意見交換ができ、生徒たちにとって大変有意義なものとなりました。

座談会に参加した生徒たちの感想には、自分の弱い心に気づき、その克服への決意や、他人の不幸に背を向けてはならないこと等、自己を深く見つめた意見がたくさんありました。

最後に、人権擁護委員さんから最近の社会で頻りに起きている人権侵害に関する事件等が話され、命の尊さや人と人とのコミュニケーションの大切さなどについて、貴重な御指導をいただきました。人権意識を高め、差別解消のために自分はどうか行動すべきかを改めて自分に問い直すことができた座談会でした。人権擁護委員の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

第28回 伊予市人権・同和教育研究会

研究
主題

「人権尊重の精神を養い、人権・同和教育問題の解決を一人一人の課題としてとらえ、同和教育をはじめとする、あらゆる差別の解消に主体的に取り組む生徒の育成」

伊予中学校

本校では、二〇〇五年(平成十七年)十二月二日に伊予市人権・同和教育研究会を行いました。

一年生では、「ちがいのちがい」という参加体験型の学習で、「あつていいちがい」「あつてはいけないちがい」について意見を出し合い、班や全体で考える学習をしました。自分の意見を言うことの大切さ、人間として侵してはならない権利とは何かを考えました。

二年生では、差別によって学ぶことができず、文字を奪われていた人が文字を学習し、生活や気持ちが大きく変わったことを伝える「手紙くたやけがうつくしい」を題材としてとりあげました。そこから差別に対する憤りをもつとともに差別を無くしていこうと



■ 就職差別についての学習

三年生では、「STOP THE 就職差別」という題材で、就職差別と統一応募用紙について学習をしました。ある会社の社用紙を見て就職差別の現実を知り、多くの人々の努力によって統一応募用紙ができたことを学習しました。そして、差別は完全に無くなっていないことや、身近にある差別に気づき、差別・偏見を克服するための行動を考えました。

授業後、のらねこ学かん館長の塩見志満子先生から「ともに輝いて生きるために」という題で講演をいただきました。先生は私費でのらねこ学かんを設立され、様々な子どもたちが自由に活動できる場を作られ、子どもたちのお世話をされています。講演の中でも子どもたちとの活動の中のエピソードやこれまで目にした中高校生の行動や心の様子、人権の大切さを一言一言気持ちを含めてお話しただき参観者全員に深い感動を与えました。



■ 塩見志満子先生の講演

すべての差別をなくする 人権・同和教育の推進

中山地域「地区別懇談会」

二月十四日から、中山地域での、地区別人権・同和教育懇談会を、中山・出瀬・永木・野中・佐礼谷の五地区において開催しました。

学習内容は、映画鑑賞と講話方式で行い、人権啓発ビデオ「大地の母さくろ」を視聴し、差別を乗り越え、人々の温かい心に支えられ生き抜いた一人の女性の力強さに皆感動しました。講話では、社会教育指導員及び、人権・同和教育主任の先生が講師となり、「身元調査おことわり運動」の取組や、「迷信や古い因習からの偏見や差別」・「高齢者をめぐる問題」などの、私たちの日常生活の身近にある差別問題の話がありました。参加者は改めて、

学びつつ 変わりつつ 創り上げよう 人権文化

太陽と緑のくに 宮崎から

第57回 全国人権・同和教育 研究大会に参加して

《参加者の感想》

二〇〇五年十一月二十六日・二十七日

去る十一月二十六日・二十七日の二日間、全国人権・同和教育研究大会が宮崎市にて開催され、伊予市四十五名の中の一員として、初めて参加させていただきました。南国宮崎市内の印象は、会場までの車中から垣間見た光景ではありますが、落ち着いた静かな街のように見えました。

初日、全体会は、開会式のセレモニー、そして、地元宮崎県立小林工業高等学校の溝辺勝登先生の特別報告がありました。ご自身が被差別部落に生まれ、現在までのご両親やご家族との苦勞、そして、子どもたちに伝えていくこと、差別問題解消への意欲と実践力を高めていくことなどの難しさを話されました。

二日間の参加分科会でのテーマは、「人権確立をめざす地域の教育力」でした。

世間では、まだまだ差別は今なお根深く存在し、人



■ 開 会 式

権侵害また部落差別は後を絶たない厳しい状況にあるのも事実のようです。差別解消には、地域住民だけでなく、人間一人一人が同和教育を自分のことと考えながら、差別しない、させない、許さないことが大切だとよく聞きます。しかし、実際には根深く難しい問題だと思いました。甲賀市、西田喜美枝さんの報告は、被差別部落出身の女性の結婚話が、相手の男性の親の反対で進まなくなり、前途を悲観した女性が命を絶ち、苦しんだ男性も胸のうちの誰にも話さず、彼女の誕生日にあとを追ったとの話でした。私は胸

がしめつけられるような衝撃を受けました。現在は、全国どこに行っても人権の問題や差別のことは地域でもいろいろ考えながら、また、工夫しながら呼びかけています。なぜ、この二人に相談または、手を差し伸べてくださる人々がいなかったのでしょうか。とても残念です。今後とも、人ごととは考えず勉強していきます。

人権の尊さを認識しました。

「人を思いやる心は、差別を生まない」「一人の百歩より百人の一步」と言われるように、一人一人が自己研修を重ね、人権感覚をもって、偏見を取り去っていけば、差別につながる言語・行動をなくすことができると思います。

本懇談会が地域ぐるみで人権・同和教育への認識と理解を深め、差別のない心豊かなまちづくりの一助になればと願っています。



■ 地区別人権・同和教育懇親会 (永木地区)

第20回人権啓発標語入選作品

一人一人の人権が尊重される 明るい伊予市をめざして

多数の応募ありがとうございました。次の皆さんの作品が入選と決まりました。

小学生の部

- 一輪車 みんなでやると 楽しいな
南山崎小 1年 高岡 真奈
- だれとでも いっしょにあそぼう だいすきだよ
由並小 1年 若松 琴音
- 手をとり合って なくそうなみだ ふやそうえがお
南山崎小 2年 中野 里菜
- えがおでいれば なかよしアップ
伊予小 2年 玉井 花歩
- 「どうしたの」勇気を出すぞ 声かけよう
伊予小 3年 仲神 若奈
- 楽しいな みんなで遊んで みんなで笑顔
翠小 3年 藤岡 徹
- ゆるさない 仲間はずしと 見ないふり
北山崎小 4年 大崎 拓夢
- きみとぼく ちがうところが いいところ
由並小 4年 中島 光昭
- なかないで みんながいるよ 大じょうぶ
下灘小 4年 豊川 美咲
- 見つけたよ 君のこんないいところ
北山崎小 5年 金井 有羽
- 一人より みんなの笑顔を 作るうよ
北山崎小 5年 仙波 祐磨
- 友達は ぼくの大事な エネルギー
郡中小 5年 中野 良輔
- 君とつないだ私の手 手袋よりもあたたかい
中山小 6年 新岡 若奈
- 指さしは 障害者への 胸のやり
郡中小 6年 西田紗也佳
- 手をつなぎ 笑い合える仲間 大好きだ
翠小 6年 木下 愛
- 友達と いのちかがやく 未来へと
佐礼谷小 6年 山岡 将大
- あなたの宝物に 「友達」は ありますか
由並小 6年 織田 麻衣

中学生の部

- ゆるさない 笑顔をうばう その言葉
中山中 1年 兵頭 拓弥
- それぞれの 個性を認める クラスの輪
中山中 1年 井上由加里
- つらくても 力になるよ そばにいる
上灘中 1年 加納 瑠美
- 声かけで 始まる心の バリアフリー
中山中 2年 窪田 千夏
- 大切なもの それは あなたという存在
中山中 2年 白石 穂波
- 考えよう 心の痛み 命の重み
下灘中 2年 西村美有紀
- 相談できる 安心できる 信頼できる それが友達
中山中 3年 亀ノ上美郷
- 強くなくてもいい みんなが そばにいるから
上灘中 3年 松原衣久枝
- 優しさが みんなを包む 私の街
下灘中 3年 志女木智奈美

高校生の部

- すべての人に 信じ合える よろこびを
伊予農業高校 1年 井上奈緒美
- 一人一人違っていること これ大事
伊予農業高校 2年 南川 円香
- 十人十色 素晴らしいよね
伊予農業高校 3年 福泉 綾

成人の部

- 幸せは みんなといっしょに生きること
伊予市大平 金井 哲治
- 幸せを 地域で築く 正しい知識
伊予市中山町佐礼谷 横山 裕輝
- おはようは みんなの心の 朝ごはん
伊予市市場 宮領 和子
- 見過ごさない 君の心を 受け留める
伊予市三秋 日山 昇治
- 人権と まじめに 向き合っていこうよ
伊予市米湊 毛利 克朗
- 見ぬふり 差別 無関心 なくせばもっと住みよい社会
伊予市下三谷 高橋 明美
- 笑顔で言えるあいさつは 心をつなげる 明日への架け橋
伊予市中山町出淵 正岡 明
- 無関心 それが一番差別かも
伊予市双海町上灘 源田 美穂
- 認めよう みんなの違い 良い所
伊予市八倉 武智 純子
- 何気ないその行動に責任を 気づいた時に訂正を
伊予市上三谷 曾根 千明
- やめようね いじめにさべつ みなおなじ
伊予市上野 池内 弘司
- その笑顔 心をつなぐ 第一歩
伊予市上野 神野 綾子
- 次代へ残さず差別の心 未来へ送ろう平和と愛を
伊予市上唐川 城戸三恵子
- 人権の 花を咲かそう 心の中に
伊予市上唐川 吉澤三千久
- つらい時 勇気をくれた 友と
伊予市双海町上灘 森脇喜代子
- その差別 笑顔の花を摘むハサミ
伊予市尾崎 松下 美香

『見過ごさないで 人の心を傷つける落書きを』